

子ども育成支援 学習支援や読み聞かせなど5団体に助成

今年度から始めた子ども育成支援事業の助成先が決まりました。助成するのは、学習支援や本の読み聞かせ、子ども食堂などの活動を展開する5団体で、助成総額は250万円です。これまで「子ども支援寄金」の多くを奨学金に充ててきましたが、子どもの貧困が社会的な関心を集める中で、新しい発想やアイデアで貧困家庭や母子家庭などの子どもの健全な育成に向けて取り組んでいる団体を支援したいと考えたのがきっかけです。初年度は新聞での公募はせず、事業団のホームページで助成を希望する団体に呼びかけを行い、相談のあった中から助成先を決めました。来年度は予算額を増やすとともに新聞社告などで公募も行う予定です。



読み聞かせなどの活動をしているぐーぐーらいぶ

このうち、NPO法人「ぐーぐーらいぶ」は、東京都武蔵野市で、子ども文庫の運営や絵本の読み聞かせ会など子どもの読書環境のサポートをしている団体です。利用者から学童クラブがいっぱいで入れないので、その受け皿を作ってほしいという要望があり、今年から平日の夕方、5歳以上の子どもを預かり、「放課後文庫」を始めることになりました。宿題など学習支援のほか、本のある環境をいかにして読み聞かせなども行うそうです。運営費の一部として90万円を助成します。

学習支援をしている2団体にも助成します。NPO法人「Kacotam」は、札幌市内で児童養護施設や母子生活支援施設を訪問して、施設の子どものために学習支援をしています。ボランティア15人の交通費や講師の謝礼などとして47万円を助成します。NPO法人「まちの塾フリービー」(東京都杉並区)は、不登校、引きこもり、貧困、発達障害などの問題を抱える子どものための無料学習塾です。会場使用料や教材費などとして80万円を助成します。

東日本大震災の被災者支援6団体に助成 津波による不登校の解消対策や就労支援



東日本大震災の被災者支援活動に取り組む団体への助成は8年目となりました。ふくしま連携復興センターや岩手県などを通じて応募を呼びかけ、6団体への助成を決めました。うち2団体は2年目あるいは2回目の助成です。助成総額は450万円になります。

このうち、「NPOマザーリンク・ジャパン」(東京都世田谷区)は、代表の寝占理絵さんが中心になって、震災で津波に襲われて以来、不登校や引きこもりになってしまった被災地の若者たちに立ち直ってもらおうと、岩手県陸前高田市に拠点を置いて支援活動をしている団体です。不登校の若者が通えるフリースクールの建設・運営が最終目標ですが、今回は昨年、岩手県内で開催した「不登校・引きこもり解消アドバイザー養成講座」を仙台市内で今年7月に開催する費用の一部として、150万円を助成します。寝占さんは「昨年は岩手県からの補助を期待していましたが、それがなくなって困っていたので、大変助かりました」と話していました。

それ以外の団体(所在地)と、その助成内容、助成金額は次の通りです。

■2018年度 子ども育成支援事業助成先

助成額の単位：万円

所在地	団体名	助成内容	助成額
北海道 札幌市	NPO法人 Kacotam	施設にいる子どもの学習支援。ボランティアの交通費、教材費、消耗品費、講師謝礼	47
東京都 杉並区	NPO法人 まちの塾フリービー	引きこもり、貧困、発達障害など問題を抱える子どもたちのための無料学習塾。会場使用料、教材費、講師謝礼など	80
東京都 武蔵野市	NPO法人 ぐーぐーらいぶ	放課後の児童の居場所として放課後文庫を開設。初期費用、事業運営費	90
千葉県 一宮町	一宮学園自立支援 はじめのいっぽ 後援会	現在は親となっている一宮学園退園生への支援。子どもへの絵本の読み聞かせの大切さを教えるスタッフの交通費と絵本代	13
山口県 岩国市	NPO法人 とりで	毎月4回岩国市の2中学校区で「こども食堂」を開催。会場費、材料費、消耗品費等	20

西日本豪雨の災害救援募金を受け付け

7月上旬に西日本を襲った豪雨の被災者救援金を7月10日から、読売新聞社と共催で行いました。7月末で8,000万円以上のご寄付がありました。8月下旬まで受け付け、全額を被災自治体に送ります。義援金として被災者の生活支援に使っていただきます。総額と送付先は11月号で掲載いたします。

NPO法人さんりく・こすもす(岩手県大船渡市) 障害者が作るクッキーやマドレーヌを販売する店舗に障害者用トイレを設置する費用60万円▽みらい大船渡事務所ポプラ(同市) 障害者の就労支援に使うパソコンやウイルス対策用ソフトの購入費用50万円▽復興支援士業ネットワーク(仙台市) 震災で精神を患ったり、引きこもりになったりした人の就労支援としてパソコン研修や茶話会を実施するためのチラシ代、講師謝礼、会場費など70万円▽NPO法人福島就労支援センター(福島市) 原発避難者の子どものために学習支援活動のためのボランティアの交通費、教材費、施設利用費など30万円。助成2年目▽NPO法人ふよう土2100(福島県郡山市) 市内の養護学校や特別支援学級に通う子ども・家族らの居場所になるコミュニティサロンを開設するためのエアコン、冷蔵庫、オープンレンジの購入費用90万円。助成は2回目。